



正校
小畫珠法
前篇
四

15
1637
4



門イ 6
號 1637
卷 4

北窓瑣談卷之四

梅華仙史橘春暉著

昭和41年12月20日
原安三郎氏贈



昔者^{まづ} 朝日^{あさひ} 氏^{うぢ} の 顔^{かほ} を 看^み ず 蔓草^{むらさき} の 纏^{まと} ぶる 皆^{みな} たり 不^ま 卷^{まき} たる 之^{これ}
 天地^{てんち} 乃^{すなは} 自然^{じぜん} 不^ま 任^ま せ れ ば 在^あ り 是^{こゝ} ち 日^ひ 夜^や 天^{てん} の 左^{ひだり} 旋^{まわ} り 右^{みぎ}
 由^{よし} 急^{いそ} ぶ 天^{てん} 乃^{すなは} 氣^き 不^ま 引^ひ き ぐ たり 不^ま あり
 一^{ひと} 松^{まつ} 永^{なが} 貞^{ただ} 徳^{とく} の 著^{ちやく} 述^{じゆつ} 乃^{すなは} ち 戴^{たい} 恩^{おん} 他^た と 又^{また} 何^{なに} ぞ 貞^{ただ} 徳^{とく} 生^な 涯^げ 恩^{おん}
 義^ぎ を 載^の せ し む 我^{われ} 載^の ら せ ら せ ば 余^{あま} の 書^{かき} 載^の せ ば 我^{われ} の 書^{かき}
 今^{いま} 書^か け ば 今^{いま} 時^{とき} 乃^{すなは} 凡^{たゞ} と 遠^{とほ} い 古^{ふる} 人^{ひと} 徳^{とく} 切^き 乃^{すなは} 凡^{たゞ} 義^ぎ 難^{がた} 有^あ る 也^{なり}
 一^{ひと} 天^{てん} 王^{わう} 寺^じ 六^{ろく} 時^じ 堂^{だう} の 前^{まへ} 乃^{すなは} 鐘^{かね} ハ 聖^{せい} 徳^{とく} 太^{たい} 子^し の 舊^{ふる} 物^{もの} として 真^{まこと} 乃^{すなは} 黄^{わう}

鐘律ありと云と兼好が徒然草小出より今ふる世の
人皆名鐘ありと思つり。余も往年天王寺小出に在る鐘を
小出律其鐘六似も有るを云々然る世間普通尋常の鐘乃
如し其形も又二三百年より古た物と云々其怪しく寺僧
小出小太子傳来の古鐘ありと云。怪しく其樂人小出小
出小律と其鐘小出非と云余は是を思ふ小出太子傳来の古
鐘をむのし給失しと云後寺僧其鐘を知る人乃
外乃鐘成と云補いふ事其鐘也。僧徒乃古鐘なりと云
也。此寺乃廢物の一のあり成失するといふもいふなりと云
もく人を經ふ。但其鐘の古鐘乃失するも惜たるの限
あり。其後年毎く浪華の古た事よく知る人小出の鐘か
乃鐘を二百年お其五郎右衛門といふ鐘物師乃新鐘を
時堂の前小掛とありと云。其故五郎右衛門と云人衆
の大佛殿乃鐘を鑄く人少く官より三十人扶持を賜
今もお續く樓別姫路に其家有と云。又徒然草小出の
鐘金剛院乃鐘。今洛西乃妙心寺小出と云て尋に此鐘を
撞時寺小出凶事何事と云藏中納言小近末卓見の傳
出く何系と云もや何んとも又出て撞たも小出打悪
凶事何事と云一山也其寺今も又云藏中納言小出
りいし。虚実いふあるやいふ

あり。其後年毎く浪華の古た事よく知る人小出の鐘か
乃鐘を二百年お其五郎右衛門といふ鐘物師乃新鐘を
時堂の前小掛とありと云。其故五郎右衛門と云人衆
の大佛殿乃鐘を鑄く人少く官より三十人扶持を賜
今もお續く樓別姫路に其家有と云。又徒然草小出の
鐘金剛院乃鐘。今洛西乃妙心寺小出と云て尋に此鐘を
撞時寺小出凶事何事と云藏中納言小近末卓見の傳
出く何系と云もや何んとも又出て撞たも小出打悪
凶事何事と云一山也其寺今も又云藏中納言小出
りいし。虚実いふあるやいふ

一集外歌仙と狩野通長小命とこれ國画を添くきたりと

筆炭竈

平常緑

十葉々常風六甲
東六即風頼末

立のふら烟をくまは炭竈成ることもつらやう胎の志うふ

残春

津守國豊

任吉社書
信長時代人

ゆへ乃山とくろをたてて人の子をくふたふをたて古はと

山月入簾

浄通尼

光隆院殿後室

秋乃夜のそとれ玉のほをあらまを程く頼りの山猶乃月

春脱言

宗長

後柏原院御宇
連哥師

春柳のあけぬ人乃ゆき道あぬ御代のを家をも閑た

寄舟惠

宗碩

連歌師

あつ程り無流しなる思ひくもむかへ無た君をくれあき

月前丁

宗閑

能登

春の初るを井の層は春よりも舞あはぬ月乃新りな

曙雪

正徹

徹書記
招月庵

春の雪の雲井さうらな危濱くおのの好くを次をたあけわ乃

物逢惠

正廣

世日頃正廣ト云

物逢の糸よりくや月乃更ぬ人月日の袖乃たきく

一夜の

游擣衣

兼裁

猪苗氏
仙基連哥師

秋深くあ萩尾乃浦此海士人志不_レ脱衣とや_レ法_レ華

冬 野

道 灌

太田

か_レ衣_レま_レそ_レ地_レ乃_レ草_レの_レ花_レ蔭_レ不_レ乃_レし_レあ_レけ_レも_レ志_レも_レ枯_レ小_レ空

寒 芦 風

長 慶

三好修理大夫

難波風入_レは_レふ_レら_レる_レま_レさ_レさ_レさ_レあ_レけ_レ枯_レ葉_レの_レ蔭_レそ_レま_レさ_レり

旅 宿 叢

宗 養

連哥師

風_レ中_レ飛_レあ_レれ_レた_レし_レる_レ筆_レ枕_レま_レも_レ志_レも_レぬ_レ旅_レ宿_レこ_レい_レし_レき

園 雪

政 宗

伊達中納言

ち_レま_レも_レ維_レふ_レ裁_レえ_レん_レ遠_レ坂_レの_レ里_レ舟_レた_レる_レ法_レも_レ夜_レ中_レの_レ志_レも

梅 鳥 留 袖

兼 与

猪苗氏
兼裁ノ子

法袖_レふ_レ白_レい_レを_レ好_レま_レく_レ散_レの_レ衣_レ色_レ更_レま_レく_レた_レる_レ庭_レ乃_レ梅_レ枝

遠 村 鶏

玄 陳

里村
花下先祖

を_レち_レま_レふ_レ由_レは_レけ_レ多_レ乃_レ毒_レま_レえ_レの_レま_レ里_レに_レあ_レり_レぬ_レま_レさ_レり

侍 花

昌 俊

佐川田喜六

う_レち_レの_レ花_レま_レ法_レ以_レて_レ新_レあ_レく_レ糸_レか_レり_レ峯_レ乃_レ志_レも_レま

佛 名 夕

紹 巳

連歌師

ま_レ佛_レの_レ御_レ名_レを_レと_レか_レく_レは_レ罪_レも_レ消_レ々_レ理_レ衣_レ乃_レ志_レも

初 冬 時 雨

宗 牧

連哥師

ま_レ終_レ小_レ秋_レの_レ時_レ雨_レ乃_レあ_レく_レ情_レを_レ空_レし_レま_レせ_レぬ_レ冬_レ乃_レ志_レも_レ末_レ小_レ志_レも

田 鹿

玄 肯

細川

さびしうの小田子候も兼乃幸の遠く加うをそし慕ひ了りて

行路時雨

玄 前

連歌師

かつらとる竹井山風吹しよりやうく時雨乃雨はそら

柳

元 就

毛利太膳大夫

喜柳の糸くりまきそりのまきけり小糸巻乃初むりて

雨 居

氏 康

北條左京大夫

幸し小清ぬ庭と塵もあし風も清のま類山の下の

松 間 花

晴 信

武田太膳大夫

左並ふのこそあふれ山はくく松小千年の色をまき

寄 松 祝

氏 政

北条

すれ松君ふのの種くけりし松乃千年の葉代乃る家

山 家 初 冬

尚 燈

惣社坂本

山候乃初けの煙寺志の里時雨し空に冬をまき

月 思 性 事

長 嘯

東山若狭守將

世々の人乃月を思ふしかなきそし思ひしぬき袖の事

圓 月

宗 徳

連歌師

信乃得すの申ぬ室乃戸茂維く由家し二月乃初中乙

月 前 述 懐

心 敬

僧都連歌師

さしうもあふるも志し身をあふるに命たふさる月可

荻原琴夏

基佐

藤井越前

幽し、小徑をそ極し、あしひききりて、庭乃萩

同右遠根

肖柏

牡丹系

あまぬらし、揺らこし、こゝろ入の、けしきを、おぬ月乃

山家燈

親當

嵯川新虎衛

善くこそ人住常々、あしひき、あかこ、山庭乃、窓けしき、し火

曠神樂

冬集

安宅権律師

うらふ夜の、曉は、春、あけ、神代、あけ、あしひき、鈴の、音、の、那

河、五月雨

氏真

今川

うらふ、五月雨、あけ、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ、あけ、あしひき

弄枕名

昌叱

黒村

あまね、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ

江迎寒月

政一

小堀遠江守

あまね、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ

月

貞徳

お水

あまね、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ、あけ、あしひき、あかこ

一、摺、車、肥、後、宇、所、藏、信、西、入、道、の、真、跡、乃、舞、楽、乃、圓、の、毫、物、乃

字、し、あり、楽、曲、數、多、あり、中、不、合、筆、を、く、吹、笛、の、墨、を、と、り、小

今、の、一、く、新、小、正、書、の、不、受、て、ど、斜、に、を、む、く、て、吹、り、是、古、昔、乃

舞の吹やと思ふ。又と樂家も多近く吹曲あり。舞の姿
玄早勢もて今乃作間ふある。太神樂。獅子舞。まげま。輕業
やふのびたよまきし。推樂ハ古代の物もく殊も唐土乃りふふ
まじ。今乃これ章雅喜えりまじハ世俗の淫樂と格ふハ
物もく天地青壤の遠いあるまじや。人皆思ひ居れども人
情も古今同じまのたれむ。舞舞中々今乃俗人の悦ぶやま
このりまのつるふたれとたり

一京都 幸通下立賣小極を賣老翁あり 吉久とり寛政八
年丙辰百十歳ふく壯健なり。能治乃職をもく勤久毎ハ
月身小極を法方に出く賣出りもまの任なり。故一条殿下小

鉄石軒より小號を賜ふ。外王侯貴人争ひ召く壽乃
と成去りの終ハ極をり老翁とくく縦のく鉄石軒吉久ハ
縦のく賣に壽九十七歳亦ま壯健なり。夫婦とも以上行
數十年の妻を保つがく。月日終りく同切な生小あり

一寶永年間 大納言殿ハ管絃乃達人ありしが。時更小極

琵琶乃埴能もくむまじ。御同列の御家も延喜御物の名琵琶
巖のく系茂昔より拵傳之流くるを。御義も思ふ毎度彼亭小
あまをひく彈し流いハ。一ハ不空より。成ふも暫時備り
なすハ成作られく。彼御おの流い。拜領乃品家之兼
拵傳之傳ふま實門外も出く。これよりを新に流いハ。御

もちろしくわくわくし、彼御殿の申すに、
北野乃社、往時、往時、往時、
昔し、のる、借、り、は、ん、と、成、れ、ま、す、と、い、ふ、る、風、吹、り、も、雨、降、り、も、
し、り、と、い、ふ、人、の、供、人、を、も、召、連、わ、さ、す、と、い、ふ、
同、家、を、治、め、た、ま、は、し、所、家、を、も、い、と、物、狂、り、人、を、も、い、
し、り、と、い、ふ、人、を、借、り、ま、す、と、い、ふ、始、り、極、く、借、り、も、思、い、
と、い、ふ、人、の、い、し、が、後、に、い、ふ、感、心、し、極、く、い、ふ、も、あ、る、と、い、ふ、
あり、と、い、ふ、人、に、い、つ、て、借、り、を、も、召、連、わ、さ、す、と、い、ふ、
あ、の、の、事、は、借、り、の、御、志、の、難、い、と、い、ふ、彼、借、り、借、り、進、む、と、い、
た、い、と、い、ふ、人、に、い、つ、て、借、り、を、も、召、連、わ、さ、す、と、い、ふ、
た、い、と、い、ふ、人、に、い、つ、て、借、り、を、も、召、連、わ、さ、す、と、い、ふ、

上六、
抱きくも多し、
乃る代り、
土藏、
下、
一、
人あり、

二一

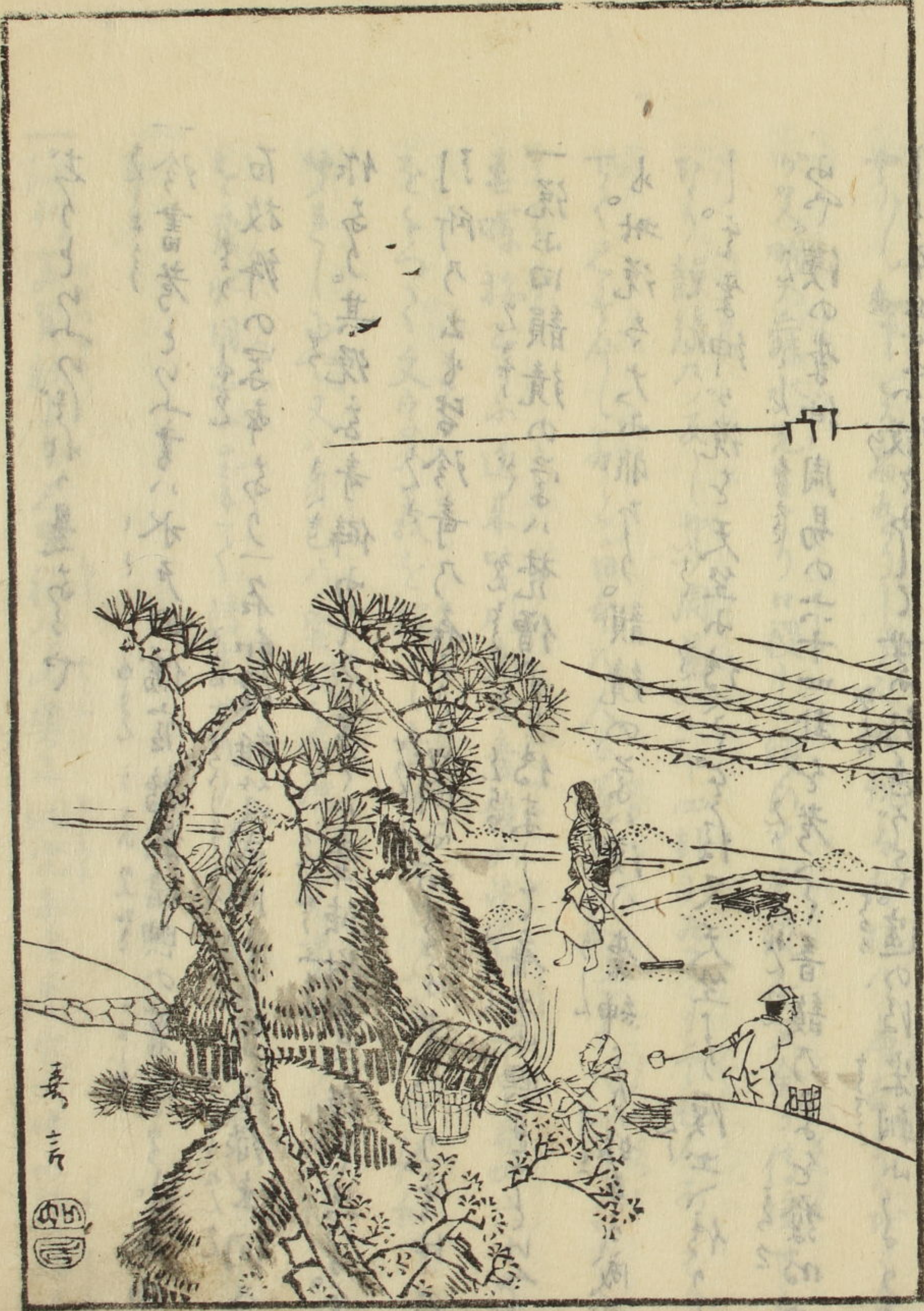
至究りくの雷獸首をわしをを又あつふ。今乃云鳥つり来る
時、雷獸の毒つるやれまを毒りかたをみを雷獸能
見つけく。毒つるやれま忽ち雷中へ飛入る。云ふ。いよ
まに入まむ。必雷鳴るあり。雷鳴ると云傳へり
又を込めく。いまの以雷をいけく。雷獸を搦るあり。何友
とりふ。言多れは由へる。作らあし。ま小なり。山畑小芋
を種るあり。雷獸芋搦を搦り。喰ふあり。いよ。而
姓あり。搦るあり。是漢上の書ふる。雷氣と云。雨
降る。

一 虫 人大海中小葉ゆし。水走。石久。新州乃石茂所

持し。海潮を石久。藻は小海。忽ち水あ。とあふ
潮乃。小限。其酒。水。藻石。水。藻。時。無
味。潔白。乃。清。水。日本。小。任。豆。水。三。嶋。小。水。似。る
石あり。とぞ。伏見。御。意。高。の。神。主。三。本。傳。言。ハ。二。嶋。小。緑。家。あり
て。一。尺。余。の。水。藻。石。茂。三。嶋。より。け。る。石。の。上。茂。か。し。宜。佳。又。極。里
今。中。小。潮。上。る。酒。あり。酢。も。り。れ。ま。を。四。万。り。上。り。見。然。上
滴。り。出。る。酒。あり。試。し。小。葉。小。清。水。あり。然。き。も。れ。云。女
一。は。切。く。中。數。斗。の。水。茂。藻。石。形。急。用。火。立。し。と。傳
魚。子。木。つ。さ。又。及。び。た。り。と。結。り。た。

一 佐野山陰沿路五福良といふ所の嘉農坂東使上卿といふ人の

少小遊あそひしよのりやしぬを家乃庭いへまく垣かきを焼やればいはし
 けいりふ後うしろ庭にとらふもやけりくるまはらむはあらむはいし又
 せし理う漸かをあさるゆをあはめく漸を滝を時小を乃上
 ぶれ成入るにをゆの礼きる為ふ業く前狭くま度
 く何くる物をあてるに上ふ漸を汲入るりありけ業く
 編むる物を後庭とりありとあたり法ふる方言はらしし
 ぶれと他の國より如け物を後庭とりやあらむと活す
 毛乃天野信景著述の書乃名を後庭と名付へる書す
 の最初に後庭の鏡みるあそとそを鏡いのある況も也。余
 いけが後庭乃初巻を又と書ふ人の竟へる雷盆のふを志す也



天野信景著述の書乃名を後庭と名付へる書す
 最初に後庭の鏡みるあそとそを鏡いのある況も也。余
 いけが後庭乃初巻を又と書ふ人の竟へる雷盆のふを志す也

長
 言
 (Seal)

ざりとりよのげれり是あるや

一 珍書考（珍書考）と云ふ書ハ水戸の儒官持綱信興（持綱信興）の著述（著述）なり。其物
石紋解（石紋解）の字本あり一名和漢雜（和漢雜）及或同（及或同）ともいふ。元録（元録）之間乃
作あり。其説（其説）ハ奇僻（奇僻）ありし多くハ牽強附會（牽強附會）の説（説）と思はる。其
引所乃去も皆珍奇（珍奇）乃名あり。世間（世間）ハ何（何）も書なり。其中心乃
一 説（一説）ハ曰韻鏡（韻鏡）の字ハ梵僧（梵僧）より傳來（傳來）して唐土（唐土）ハ興（興）まりしと云ふ
也。此説（此説）ハ大ハ非なり。韻鏡（韻鏡）の字ハ漢（漢）ハ李紳（李紳）より始（始）まり成（成）
し。李紳（李紳）が説（説）を天竺（天竺）ハ傳（傳）へし。後又天竺（天竺）より漢土（漢土）ハ傳（傳）りし
也。漢（漢）の李紳（李紳）周易（周易）の六十四卦（六十四卦）を考（考）へし音韻（音韻）乃字（字）を發（發）的（的）せ
し。其字（其字）ハ微々（微々）ありして世（世）ハ其（其）を以（以）て造（造）る。造（造）の後宋朝（宋朝）ハ其（其）を以（以）て

中（中）りし教（教）者（者）ありしと云ふ此説（此説）ハ印板（印板）ハ唐土（唐土）ハ其（其）を以（以）て
ガ又明（又明）ハ蘇水（蘇水）先生（先生）より授（授）し。其説（其説）を又余（余）ハ傳授（傳授）せし
なり。韻鏡（韻鏡）ハ及（及）し中（中）り周易（周易）の六十四卦（六十四卦）ハ其（其）を以（以）て
てく。其字（其字）ハ其（其）を以（以）て日本（日本）乃人（人）を以（以）て其（其）を以（以）て大秘説（大秘説）ありと云
ふ。其（其）を以（以）て近來（近來）皆皆川先生（皆川先生）音韻（音韻）の字（字）を唱（唱）へし。易（易）の六十四卦（六十四卦）
を以（以）て文字（文字）の義（義）を解（解）し音（音）を知（知）りし。皆川（皆川）ハ其（其）を以（以）て秘説（秘説）を
其（其）を以（以）て。又ハ自己（自己）ハ其（其）を以（以）て唐土（唐土）ハ其（其）を以（以）て書（書）傳（傳）りし。漢代（漢代）乃其（其）
を以（以）て其（其）を以（以）て傳來（傳來）せり。其（其）を以（以）て其（其）を以（以）て信（信）じし。其（其）を以（以）て
りり

一 江列多賀社（江列多賀社）より三里（三里）程（程）乃山奥（山奥）ハ洞窟（洞窟）あり。其（其）を以（以）て其（其）の中（中）ハ其（其）を以（以）て

多く産せり山田の浦乃人木内古盤此穴の遊なりとゆり

一スラングステイニと云石も虫物よく 虫人半あり 持返る

く膿く膿物に潰れし時小石を瘡より尚れし膿

けを吸ふ膿を石に吸はく多き之を石に水中に入れて

吸ふ膿をしく多中吐出さるる石に吸はく之を

く炭皮も用ひ腫物の膿を吸ふ事ベントウザ小腸よりと

石の色赤と黒く光りく聊針眼あり近來々偽物多し

舌小付りし真物も多しぬ極あり如意道人東遊の日記

和唐ふけ石のゆきを一つ塊を拾ひ余りも拾ひて遠く

掛川乃近在サイゴウ村蛇谷といふ處小産を此地乃方言小

舌付石と云石の色赤く砥石似たりよく舌小付 形状大く
垂産小石あり

一紙前必教賀系仁在傳といふ余り多事格不意の人あり

此人用のより好ましく 數月余く 舌小付 五さるるあり

善子代といふ二歳小産の岩曲といふ小産を善子代し下婢

一人石をいれり多し 旅りの為なりれを外小男子に取れり

産しといふ又一人廿七才許あり下婢をやくいふ産を産り

寛政九年丙十月の事あり 後よく彼下女産の事あり

多し 善子代も同様 持病小疾強た下女あり又疾や發する

たまと思ひし小産あり 有明の燈火消在りし小産

妖姫もくもく病の然りしゆりもあまづし。瘥多し人ち
陽気頭上小くも。そ氣形を結んば眉より上よわふ人
し。その人の寐るるをそとふ真の眉をそへ付くも
離魂病の類ありし。彼下女屏風乃内小寐ふりな
れど。眉より身に付居りや。そそしと書女語りた

一寛政辛亥臘月江戸下谷の大目久居侯乃臣福地三右衛門大
小御さし小をば 官より侯へ達せしと三右衛門義
叶頃火災乃其比顔あり働た消は數ヶ所をより 跡更呈現
乃引廻し方々屋あり 上岡小達し奇特小思し召るる
同。三人より衣袋より紙をとりし。海小御妹乃降臣乃功

をもく悟ふ賞せし。士氣を勤まその業ありし。たご
た御代ありた

一元の御宗可乃茶筌の侍とく朱文云家禮の注小見えし

此君一節瑩無瑕夜聽松風漱玉華萬縷引風啼蟹眼
平飛雪記龍牙

一寛政四年壬子二月肥前雲仙嶽大目火燿と數日地震
し。同日四月朔日の夜成刺通雲仙嶽の下乃前山より
か鳴系城乃上よありし山二つ礎き大出く。同時小樽原海中
より火燿出津浪山のよく湧上りあり島原城下の町に
外傳系領乃村に佐嘉領の南海小原あり村に肥後あり西面小

餘多村々。天草嶋の海濱少ゆる民屋皆同時小没溺し。嶋
 系より死亡の人凡三萬餘。肥後少くも二万餘人といふ。其の外
 備前皆それ小準として歿した死亡あり。其夜海中小死嶋
 七八十も出現したりとぞ。去年霜月はより雲仙嶽鳴動し
 て妻小島里中まはしく。夜分中地中より火乃玉出或ハ火
 柱あよのまゝもも毎度ありとぞ。二三月以中九列惣体地
 震あり。肥前もあしく。洛一日の同小罕六度震りし
 小島々々。四月朔日大破乃時差ハ崎系の地も熱し。草履して
 多歩坊ありとぞ。鳴山破き大出しとぞ。其小島嶋
 系近辺の草木一夜のろ小何事のもの係小花咲もれ人皆足物

小出し往なり。安永己亥の冬十月朔日より薩摩小振嶋山
 大小燃る。十月十日中々修勢尾張志舞多河造やまくれを庚津
 たり。其後天明年中不信列後同嶽大小燃又々度乃雲仙嶽
 たり。振嶋山乃時ハ大隅小海中小新崎七つ出現せり。余小親
 しく見及ぶ。海中津浪も々度おしく。但大嶽の
 後數日しく山上より大水漲りり。其小島乃民家皆流き死
 亡乃人多し。後同山大嶽の後も數日しく山中より巨
 水大小漲り。利根川を押しり。其末江戸近も其勢衝たり
 其小島數十里乃同人民の死亡數万人小及なり。後同山乃燃る事
 系都近小見えたり。唐去少くも山崩是川洞をハ凶事と云あり

しぬる小。河中新小嶺。茂湯出せるるハ玉の増とく言
 心。元々年去仙山嶽破きく。地下の蔚陽大。奈達し。中
 小。夏小。却。氣候。多。頃。小。五穀。乃。豊熟。近年。以。足。さ。る
 種。なり。氣候。和。順。ある。故。也。脚。氣。中。暑。下。利。等。の。病。多。く。人
 民。健。固。ま。く。例。乃。夏。小。矣。なり。され。む。若。山。獨。福。ハ。お。洗。子。物。ま。く
 九。列。の。死。亡。種。ハ。天。下。中。有。余。多。る。也。也。造。化。の。多。あ。く。不。可
 思。儀。乃。も。み。たり。
 一。肥。後。玉。山。中。小。方。言。ト。ウ。タ。ウ。と。上。草。河。を。煙。子。乃。葉。小。似。る。玉
 毒。草。あ。く。是。成。食。く。奈。狂。く。三。日。終。ま。さ。多。く。り。ド。ウ。タ。ウ
 と。く。良。草。の。も。也。

一。近。死。以。産。辱。小。何。を。秘。書。成。好。く。玉。を。切。事。成。是。く。玉。を。能。ち
 ①。ぬ。は。小。糸。道。具。の。火。河。の。く。鉄。ま。く。作。里。を。錐。の。廻。り
 茶。を。付。く。燧。火。少。く。あ。づ。り。乾。り。水。種。を。た。し。る。也。玉。葉。小。一
 て。暫。時。小。何。も。少。く。小。彫。り。あり。を。錐。小。大。ある。も。あり。小。成
 小。あり。又。錐。の。先。小。彼。茶。成。付。く。多。種。を。も。く。穴。成。穿。ら
 針。を。彼。穴。小。通。し。ぬ。は。く。し。多。く。物。を。貯。ま。暫。時。小。を。穴
 大。小。なり。く。い。つ。種。も。も。細。工。成。絶。を。發。見。あり。水。種。の。器。物
 小。彫。物。也。る。印。章。也。る。彫。刻。也。の。中。小。なる。あり。鹿。兎。嶋
 乃。増。田。並。治。郎。け。を。よ。く。と。も。河。系。十。左。馬。つ。語。り。た
 一。質。葉。種。ハ。公。儀。御。制。林。系。の。も。ある。小。好。得。の。高。人。あり。て

賣くふ。武吉を價をふるふ。知るる。唯此等。つゝ人賜
りおあし。少ねせたる。武吉納二疋をよへ。望を寄る
はり。と又た。無双の生かり。水。價を寄し。加へ。彼女
我。呼。れ。女。生。成。返。し。と。し。る。ど。い。は。り。今。成。限。り。近。く。ふ
を。中。り。く。こ。い。え。返。し。く。水。女。恨。上。上。賜。ハ。思。ハ。返。し。ハ。せ。ぬ。よ
を。こ。い。ふ。も。武。吉。せ。く。又。こ。い。ふ。小。い。あ。う。ど。望。ろ。い。や。り。不。良
く。小。い。價。を。寄。ん。な。り。と。今。三。疋。成。増。よ。ぬ。女。情。く。と。り。ぬ。奴
望。小。言。を。付。く。吹。試。ふ。双。び。無。名。を。寄。り。水。で。接。小。上。り
御。物。と。り。傳。り。今。も。院。下。を。と。り。け。り。を。豊。系。統。秋。體。源
汝。小。載。り。い。り。末。代。に。ま。り。た。人。の。い。ふ。ぬ。り。今。も。世。ハ。か。い。お

物をよやと買ふ。我。言。名。ふ。わ。い。く。悦。み。頻。り。大。に。後
も。世。小。い。き。ハ。利。潤。と。大。切。な。り。よ。あり。自。然。衣。食。の。類。と。久。く
不。用。よ。い。れ。ど。い。い。も。も。か。あ。し。は。こ。を。な。り。草。花。を。い。ふ
を。歎。好。く。切。人。の。あ。ふ。あ。り。不。云。合。さ。く。欲。が。希。い。た。も。こ。と
若。し。く。後。に。水。と。他。の。小。親。其。人。の。い。ふ。ぬ。り。あ。ふ。あ。り。や。し
く。代。り。末。も。付。く。上。り。御。物。と。り。傳。り。今。も。院。下。を。と。り。け。り。を。豊。系。統。秋。體。源
預。成。つ。ふ。事。人。不。知。く。唯。れ。小。責。分。た。ん。と。い。ふ。を。言。消
く。を。物。の。代。り。も。接。し。く。賞。多。り。又。い。は。れ。不。只。人。小。い。や。り。く
姉。し。く。賜。ひ。と。り。と。云。ふ。同。た。ぬ。人。あり。世。ふ。り。け。り。人。を
い。つ。く。我。後。成。り。人。に。言。ふ。い。ふ。ぬ。り。今。も。院。下。を。と。り。け。り。を。豊。系。統。秋。體。源



善言
印

五小押へくそれむ。彼町人なり。何者をも同ふ。扱く悪くたす
 かり。只とすく日たりし。其よし。虚無僧とあり。扱のうらと
 治院あり。あつとす。清光といぬ。つやをれ。思ろし。さふ。あ付
 中。あし。なり。とり。何事。を。語。り。合。あ。し。とり。に。我。は。遠。小
 大。者。なり。尚。地。の。案。因。成。り。後。後。者。と。命。死。町。ハ。何。所。と。し。中
 へ。の。取。其。善。く。き。い。を。町。に。任。り。い。と。す。業。伴。り。久。も。今
 有。ら。治。院。進。了。せ。し。中。へ。と。語。り。合。あ。し。中。へ。し。折。多。中。へ。り。とり。と
 山。寺。氏。乃。氣。妖。怪。の。徹。く。遊。き。り。し。ち。う。中。へ。し。

一淮南子曰。火不若取。燧。寄。汲。不若鑿。井。世。間。学。問。乃。も。亦。も
 ぞ。何。事。も。人。の。寄。り。く。事。成。成。就。せ。ん。と。し。又。人。を。誘。て。其。の
 功。を。立。ん。と。思。ふ。如。此。く。人。の。誘。り。事。ハ。多。く。あ。り。也。
 と。も。か。く。も。い。ふ。我。を。勸。め。く。あ。ふ。さ。く。求。む。は。其。の。つ。つ。と。

一淮南子曰。古。琴。五。絃。至。周。有。上。伊。則。為。七。絃。今。乃。筑。堂
 第。の。第。十。一。絃。を。止。と。名。け。け。第。十。二。絃。茂。休。と。名。け。け。第。十。三
 絃。を。中。と。名。け。け。今。乃。名。義。解。し。が。く。緒。家。の。説。終。り。なり。止
 伊。ハ。淮。南。子。小。尺。寸。上。伊。中。へ。し。止。の。字。淮。南。子。ハ。一。畫。を
 多。く。上。の。字。に。經。つ。り。り。や。う。

一降真香ハ雷^{かみなり}のまありと^まり。又雷^{かみなり}ふく^くれく^く牙^はつ^つま^まり
 たり者^{もの}に。降真香^{かみなり}とて薰^かぶれを蘇^そ生^{せい}しく^くを^をま^まりたる煙^{けり}
 除^けた去^こりし^し。今^{いま}世^よる小^こ降^{かみなり}真^ま香^かと^とり^りたる^たる^るハ^ハ此^{こゝ}来^{こゝ}最^{さい}香^かしく^く物^{もの}
 真^ま物^{もの}ありと^とす^すし^し。い^いま^ま世^よる^る小^こ降^{かみなり}真^ま香^かを^をと^とり^り。是^{こゝ}
 方^{かた}を^を求^{もと}め^めども^も真^まなる^る美^みを^をと^とり^りし^し。

一河内國^{かみなり}々々^{々々}安^あ閑^い天^{てん}皇^{わう}乃^の凌^{りやう}代^{だい}河^かを^をた^たし^し時^{とき}其^{その}中^{なか}より^{より}玉^{たま}を^をせ^せし^し
 玉^{たま}燒^やく^く西^{せい}琳^{りん}寺^じの^の什^じ物^{ぶつ}とし^し傳^{つた}へ^へり。余^あ先^{せん}年^{ねん}是^{こゝ}代^{だい}より^{より}一^{いっ}之^し
 合^あ絆^はも^もへ^へる^る庵^{あん}瓦^わ碗^{わん}あり。假^{かり}水^{すい}精^{しやう}乃^の潔^{けつ}白^{はく}あり^{あり}ま^まり^り造^{つく}る^る
 けり。備^ひ子^こ玉^{たま}乃^の潔^{けつ}白^{はく}あり^{あり}真^まの^の精^{しやう}乃^の一^{いっ}く^くあり^{あり}ハ^ハ此^{こゝ}四^し五^ご十^{じゅう}年^{ねん}

不^ふ正^{せい}事^じ也^{なり}

辨^わ此^{こゝ}之^の紅^{こう}毛^{もう}玉^{たま}あり^{あり}新^{あらた}造^{つく}り^り物^{もの}と^と日^{にっ}本^{ぽん}々々^{々々}器^き物^{ぶつ}
 不^ふも^もて^てる^るや^や其^{その}ハ^ハ山^{さん}や^やハ^ハ近^{ちか}年^{ねん}の^のや^やなり。唐^{たう}古^こより^{より}日^{にっ}本^{ぽん}
 々々^{々々}白^{はく}色^{しき}の^の硝^{しょう}子^し玉^{たま}造^{つく}る^ると^と能^{あた}り^り也^{なり}。然^{しか}る^るハ^ハ安^あ閑^い天^{てん}皇^{わう}
 乃^の時^{とき}分^{ぶん}既^{すで}に^に硝^{しょう}子^し玉^{たま}あり^{あり}し^しと^とす^す不^ふ正^{せい}事^じ也^{なり}。西^{せい}域^{いき}
 小^こ通^{つう}船^{せん}河^かを^をく^く船^{せん}来^{らい}の^の物^{もの}也^{なり}。又^{また}日^{にっ}本^{ぽん}々々^{々々}良^{りやう}工^{こう}の^のや^やり^り
 々々^{々々}造^{つく}り^り好^{この}し^し也^{なり}。是^{こゝ}より^{より}時^{とき}代^{だい}ハ^ハ古^こ今^{こん}毎^{まい}年^{ねん}事^じを^を知^しる^る
 人物^{じんぶつ}の^の大^{だい}小^{せう}ハ^ハ古^こ今^{こん}同^{どう}し^しく^く智^ち恵^ゑ情^{じやう}欲^{よく}ハ^ハ同^{どう}し^し也^{なり}。古^こ今^{こん}の^の如^{ごと}し^し
 一^{いっ}論^{ろん}衡^{けい}曰^い周^{しゅう}成^{せい}王^{わう}時^{とき}倭^わ人^{じん}獻^{けん}錫^{せき}と^とり^り文^{ぶん}已^いる^ると^とす^す性^{じやう}古^こより^{より}佐^さ玉^{たま}
 乃^の通^{つう}船^{せん}ハ^ハ古^こ今^{こん}同^{どう}し^し也^{なり}。

一^{いっ}論^{ろん}衡^{けい}曰^い漢^{わん}建^{けん}初^{しう}五^ご年^{ねん}湘^{しやう}水^{すい}去^こ泉^{せん}陵^{りやう}城^{じやう}七^{しち}里^り水^{すい}上^{じやう}聚^く石^{せき}曰^い燕^{えん}室^{しつ}

丘臨水有狹山其下巖淦水深不測。二黃龍見長出十六丈
身大於馬舉頭顧望狀如圖中畫龍燕室丘民皆觀見之去
龍可數十步又見狀如駒馬小大凡六出水遨戲陵上蓋二
龍之子也。并二龍為八出移二時乃入云。

一漢土乃画家獨祿壽の國小陶朱公周文王南極老人茂用
也又蝙蝠鹿龜の三物を画くも何れも又三白の國とりよ
何れも雪中河辺路馬茂画く。又月霜海茂画くも何れも

一安永三年甲午五月廿七日より廿九日まゝ尾ヶ崎海中より小
蟹數千餘を登り浪華の川に西岸皆蟹と成淀川に
て登り余を以浪花伏又堀小住く川辺ありしがま

川乃水茂汲小一掬の中小蟹數十枚は有り。其蟹の大き
く色よく透明あり

一同六月廿三日大風至上り尾飛ぐ本の葉乃どし。大坂近邊
乃海も大浪起り溺死乃人數百とありし。其翌廿四日の歌
羊大坂所中小蛇言起り。津浪のありく大坂町へ海あり
と言罵り男女老弱亦茂く遊遊子皆く或ハ金銀を携
へ飯茂持ちし。其強納り一許あり大坂中強もど如地
まゝ強納りし町多し。誰いれぬしなりといふもあしが
不思成乃事なりた。余ハ母茂獲く家亦在た後明以ハ成
て静なりし

八、く小畑、四方、あ、廣く、ま、暗ふ、く、唯、思、り、し、ま、り、く、
 初、も、ほ、せ、ざ、り、し、し、り、あ、ど、ま、り、し、し、り、
 堀、た、り、し、し、大、あ、り、佛、像、の、摸、さ、ぬ、お、ち、り、く、土、中、に、埋、ま、り、
 其、佛、像、の、腹、に、穴、の、り、く、里、人、佛、像、の、腹、中、に、落、入、り、し、
 其、大、あ、り、り、ま、し、庄、を、ち、り、寄、合、く、か、ぶ、物、を、堀、出、し、
 宿、所、に、お、ち、り、し、一、村、の、騒、動、あ、り、し、け、は、ぬ、埋、ま、り、
 左、に、不、如、く、作、り、穴、乃、所、に、厚、た、板、を、敷、き、り、
 後、身、り、り、と、中、觀、音、佛、方、へ、東、風、り、り、中、あ、り、り、と、
 ち、り、死、
 一、修、持、の、八、知、村、太、布、生、村、辺、の、山、中、に、お、ち、り、
 一、修、持、の、八、知、村、太、布、生、村、辺、の、山、中、に、お、ち、り、
 是、成、食、く、身、俸、不、免、た、く、堀、り、し、
 一、近、た、以、京、師、一、老、男、子、り、り、婦、人、の、乳、汁、を、飲、み、
 初、産、乃、婦、人、の、乳、房、堅、く、乳、汁、を、出、さ、ぬ、
 け、乃、そ、の、通、じ、り、り、新、産、の、婦、人、も、皆、世、老、人、
 て、乳、を、吸、出、さ、り、り、日、夜、端、方、に、招、き、り、
 他、乃、飲、食、せ、し、り、五、雜、畑、の、穰、城、の、人、年、二、百、四、十、
 食、成、下、く、唯、乳、汁、乃、く、食、用、し、り、壯、健、ち、り、
 小、長、壽、茂、乃、産、り、り、壽、幸、ち、り、
 一、河、波、風、勝、瑞、村、に、徳、島、り、近、た、所、に、余、り、
 居、り、地、あり、り、漢、村、定、方、村、に、綱、と、り、り、女、十、五、六、
 方、の、時、變、し、

一、河、波、風、勝、瑞、村、に、徳、島、り、近、た、所、に、余、り、
 居、り、地、あり、り、漢、村、定、方、村、に、綱、と、り、り、女、十、五、六、
 方、の、時、變、し、

く男子おとこと成なる則すなはち名な成な経平つねひらと改あらむ。経平つねひらと奉ほう寛政くわんせい六年甲こう
寅うし三十四さんじゅうし五ご才さいなり。壮さう美み長ちやう大だい乃の男おとこゆく妻さい成なも具ぐせり。春はる葦あし
常とこくく又またる所ところなり

一いつ寛政くわんせい甲寅こういん妻さい使し中ちゆう五ご樽物ずんぶつ屋や乃の女子むすめ松まつととりりハハ一いつ夜や全ぜん熟じやくしし
愛あいじじくく男子おとこししちちふふ年ねん十七じゅうしち八はち才さいなり。松まつとと胸むねとと改あら名なししたるを
京きやう都と乃の人ひと中山なかつやま元げん倫りんおお多た少せう使し中ちゆう小せう下げ里り活くわくくくくく物ぶつ活くわくなり

北窓瑣談卷之四畢



